

DNA分析

生態系保全への新しいアプローチ手法

調査計画の立案からサンプル採集、分析手法の開発、データ解析までトータルにサポートいたします。

DNA分析とは、すべての生物が共通して持つ遺伝情報伝達物質であるDNAの塩基配列を読み取ることで、個体、地域集団、種などさまざまなレベルにおける生物の違いを明らかにする方法です。魚であればヒレの一部、陸上哺乳類であれば体毛や糞、植物であれば葉っぱ1枚といったような非常に少量のサンプルでも分析可能です。

■DNA分析の利点

遺伝子の本体であるDNAを調べることによって、生物多様性に配慮した生態系の保全策を検討することができます。DNA分析は、対象となる生物を殺さずに調査することができるため、調査行為自体による生態系への悪影響を最小限に抑えることができます。

分析サンプルの対象として使用できるのは、



体毛



動物の糞



葉



鳥の羽

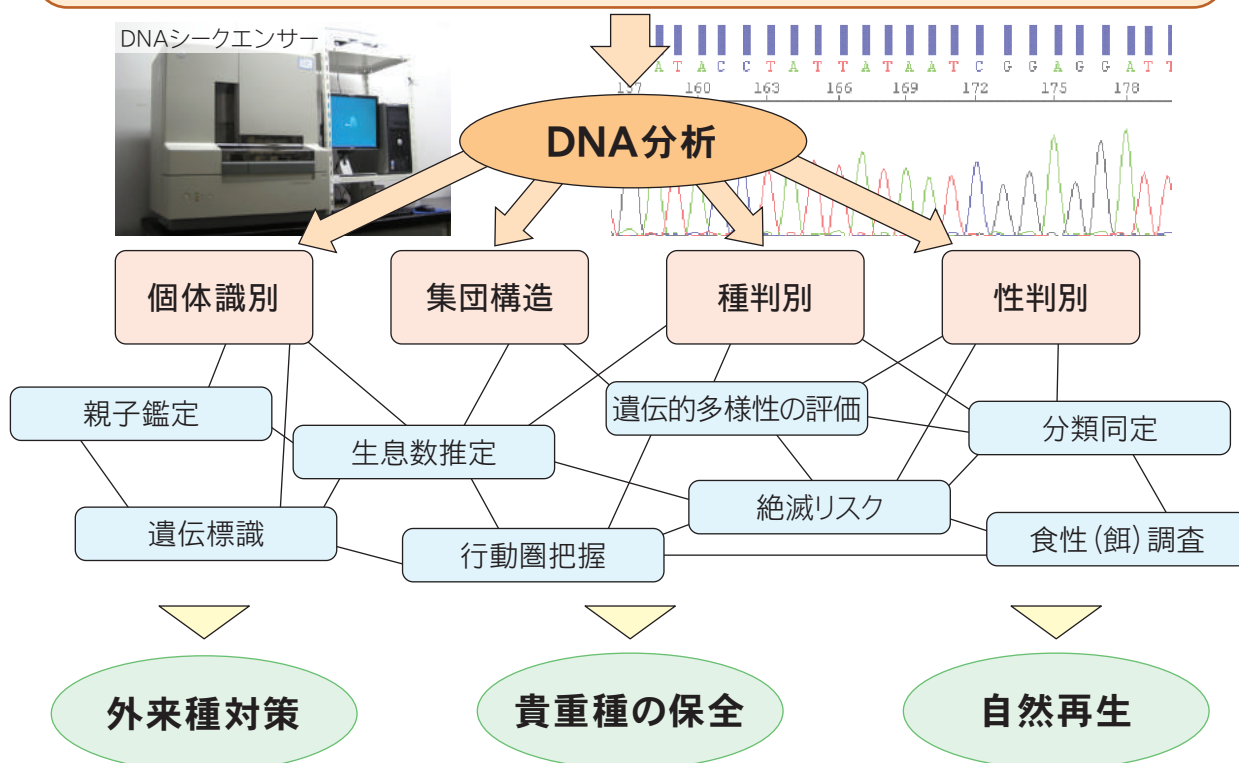


魚のヒレ



血液

…など、あらゆる生物組織片が可能です。



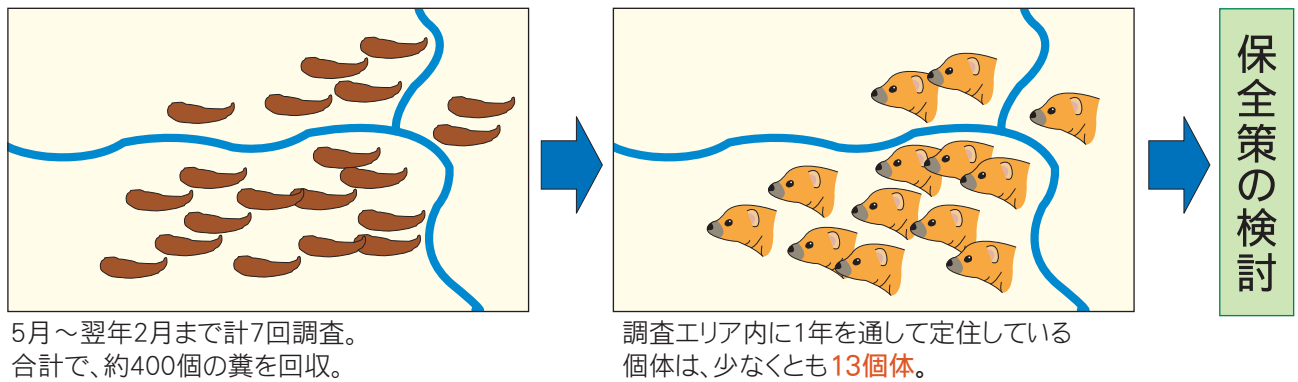
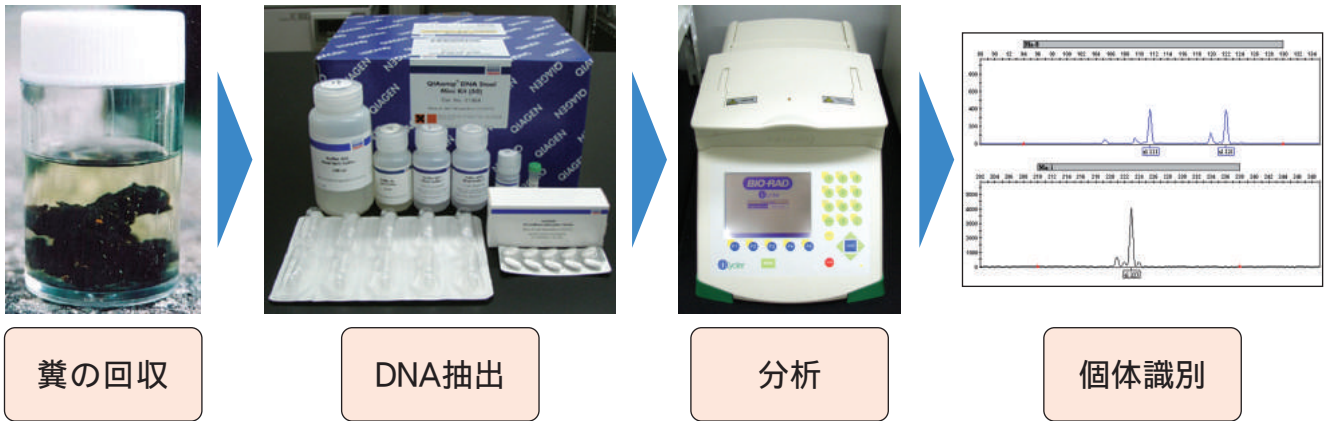
▶ダム建設予定地におけるテンの生息個体数調査



テン *Martes melampus*

テンは森林生態系を代表するイタチ科の陸上哺乳類で、環境影響評価における注目種の候補とされています。調査エリア内の生息個体数については、影響評価を行ううえでとても重要な情報であるにもかかわらず、既存の調査方法では正確に知ることができませんでした。

そこで、野外からテンの糞を回収し、糞に付着したDNAから個体識別を行う方法を開発し、テンの生息個体数の調査を行いました。本手法は個体を捕獲する必要がないため、個体を傷つけるリスクを回避することができるという大きな利点があります。



その他にも様々な調査事例がございます。
詳しくは弊社ホームページをご覧ください。

